

令和8年度壱岐市立渡良小学校学力向上プラン

【学校教育目標】「一心三気」を身につけ、自らつながり生きぬく児童の育成

研究主題

「見方・考え方」を働かせた深い学びの実践
～得た知識を相互に関連付け、深い理解につなげる児童の育成～

本校が考える深い学びとは・・・

見方・考え方を働かせて、知識を相互に関連付けてより深く理解する学びのこと。

授業改善	〈取組指標〉
○解決方法の自己決定による個別最適な学びの充実 ・「見通し」をもつ段階において解決方法の自己決定をする場を保障する。 ・自力解決を図れる環境を整え、全員が新たな知識を得るよう工夫する。 ・学年の実態に応じて書く活動やICT活用の方法を決め、共通理解を図り、系統的にアウトプットの充実を図る。	★解決方法を自己決定して自力解決できている。 ⇒90%
○見方・考え方を働かせた話し合いによる協働的な学びの充実 ・見方・考え方による、話し合いを促進・深化し、深い学びの実現を図る。 ・見方・考え方を働かせることを価値付け、自覚的に働かせる。	★「ねりあげ」「ふりかえり」に見方・考え方が反映されている。 ⇒90%
○深い学びを実現するための単元構成の工夫 ・『長崎の教育の手引書』に基づいた授業改善 ・単元によっては自由進度学習にも取り組む ・共通した学習規律・学び方の確立	★研究授業の授業チェックシート ⇒90%

基礎学力（既習内容）の定着を図る。

学力の基礎固め	学習環境の整備	ICTの活用
○チャレンジタイムによる基礎・基本指導の徹底 ○活用タイムの徹底による活用する力の育成 ○渡小検定の実施による児童の学習意欲喚起	○家庭との連携による家庭学習・生活習慣の定着 ○言語力を高める読書指導の充実(目的意識) ○校内における学習環境の充実	○児童の情報活用能力の育成 ○教員のICT活用指導力の向上

【各学力調査による児童の学力の課題及び要因の考察】

〈学力の課題〉	○得た情報の中から、必要な情報を選択し、活用する力
〈要因〉	・語彙力が低く、読書に取り組む姿勢も個人差がある。 ・基礎・基本が定着していない児童がおり、活用する力に課題が見られる。 ・情報を正しく読み取る力が低い。